

# 2018年度 事業計画・収支予算



Ver2.1

一般社団法人iCD協会

## 目的

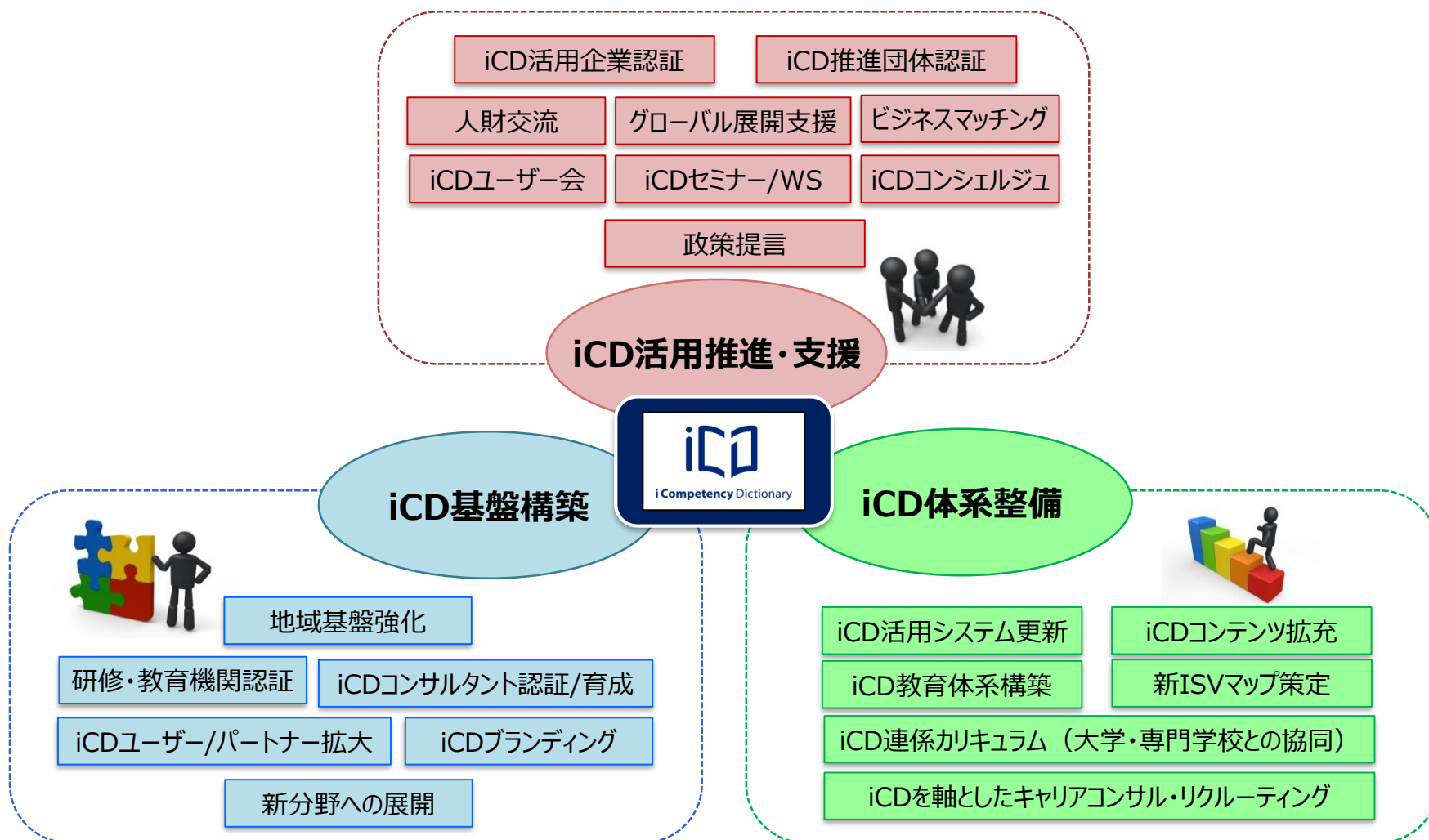
本協会は、独立行政法人情報処理推進機構（I P A）が公開した「i コンピテンシディクショナリ」（以下、「i C D」という。）に関する調査及び研究、普及啓発及び指導、情報の収集及び提供等を行うことにより、企業目標の達成を支援し、もって我が国の産業経済発展に寄与することを目的とする。

## 事業

本協会は、上記の目的を達成するため、次の事業を行う。

1. i C Dに関する調査・研究事業
2. i C D活用に関する普及啓発及び認証事業
3. i C Dを活用した人材育成のためのカリキュラム、  
研修情報の提供事業
4. I T 人材育成に関する情報収集及び情報提供事業
5. I T 人材育成を目的とした団体との情報交流事業
6. その他目的を達成するために必要な事業

## iCDの力で会社を、人を元気にする



## 1.iCDの認知度を上げ、企業による実際の活用の機会をつくる

カンファレンスや説明会等により国内でのiCD認知度の向上を図るとともに、iCD活用ワークショップ等の実活用の機会を提供して幅広いiCDのファン作りを行う。

## 2.iCD活用企業認証制度」を運営し、iCD活用企業の拡大を図る

iCDを活用している企業（以下、iCDユーザー企業）同士の情報交換を実施し、企業同士のビジネスマッチングや人材交流を図り、iCDユーザー企業の発展を支援する。また海外展開をしている企業やこれから展開を検討している企業に対して、グローバルなIT技術者育成や人事評価等の企業活動の支援を行う。

## 3.iCDを活用している企業の発展を支援する

iCDを活用している企業同士の情報交換を実施し、活用コンサルテーション等のサポートを実施する。また、企業同士の人材交流やビジネスマッチングを図り、活用企業の発展を支援する。

## 4.iCDコンテンツの内容を更新する

企業活動の業務（仕事）を整理したタスクディクショナリと、タスクを遂行するために必要な能力を整理したスキルディクショナリの内容を、内外の環境の変化やユーザーニーズに応じて逐次ブラッシュアップし、グローバル標準として高度な内容を維持する。

## 5. iCDシステムの活用を推進する

現在IPAが提供しているiCDシステムに対し、機能追加や操作性の向上等、カスタマイズを実現し、iCDシステムの活用を促進する。

## 6. iCDを活用した教育体系を確立する

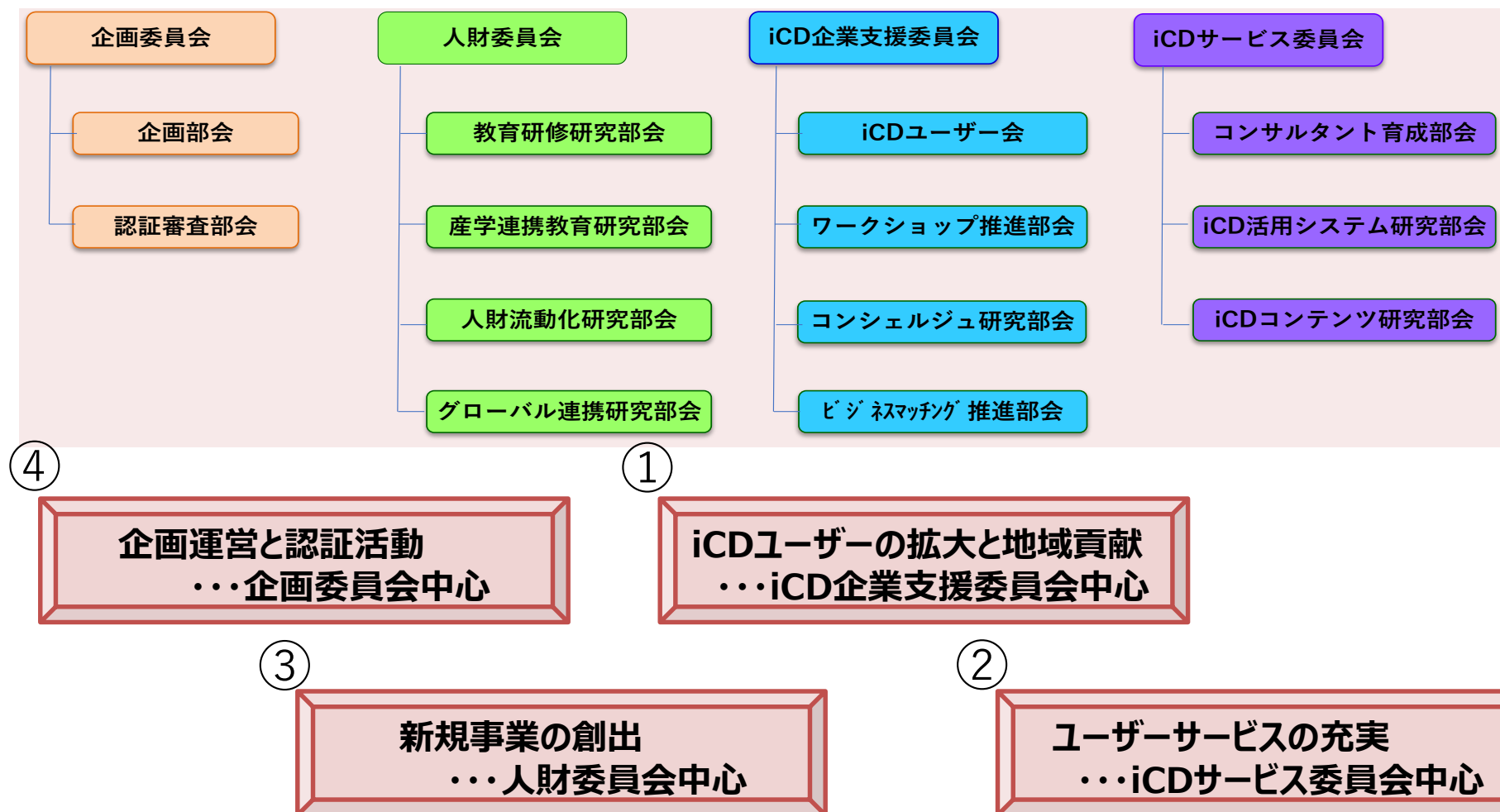
学校関係および教育ベンダー等と協力し、iCDを活用した人材育成施策を実行する体制を確立する。また、それらの機関をiCDエディターとして認証し、カリキュラムや研修手法を研究する。

## 7. iCDの海外展開を促進する

海外展開をしている企業や、これから展開を検討しているグローバル企業に対して、iCDを用いて海外におけるIT技術者育成や人事評価等の支援を行う。

# 1.事業の全体像

【コンセプト】  
4つの委員会運営を柱に事業の展開を図る



## 2. 事業別基本方針①

### ①ユーザーの拡大と地域貢献

・・・「地域拠点の開拓」・「WS・セミナー実施」・「会員拡大」を三位一体で行う

#### i. 地域拠点の開拓

- a. FISK策定の「IT人材手引書」を元に金融機関（大手・地方）へのアプローチを実施（アドバイザーサービスの提供）、また、地域の企業への波及を促す
- b. ANIA等と連携して地方の情産協の掘り起こしを行い、WSの開催につなげ、地方におけるiCDユーザーを拡大する

#### ii. WS・セミナーの実施

- a. 各団体や地域の情産協と連携して、iCDの認知度を高めるためのセミナーやミニWSなどを行う
- b. 認知度を高めたところで、WSの募集を行い、各団体や情産協主催でWSを実施する

#### iii. 会員拡大

- a. WS参加企業を企業認証に導き、iCDユーザーとしてのロイヤリティを高める
- b. シルバー以上の会員に対して、正会員・準会員への入会を推進する



## 2. 事業別基本方針②

### ②ユーザーサービスの充実

・・・「コンシェルジュ」・「コンサルティング」・「システム」の各サービスを三位一体で行う

#### i. コンシェルジュサービス

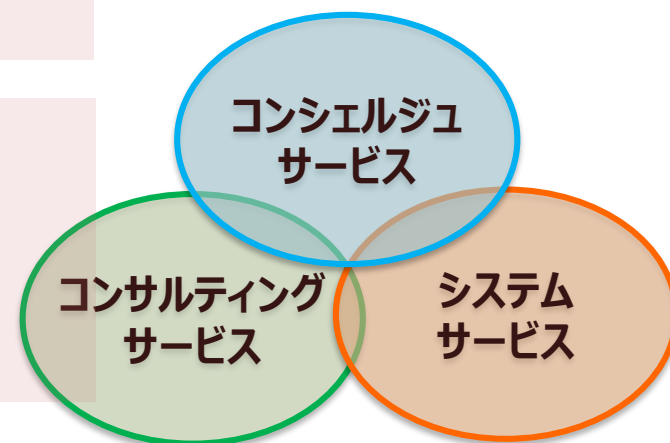
- a. 会員企業に対するコンシェルジュ活動により、活用事例の収集とコンサルとしてのレベルアップを図り、コンシェルジュ活動を通して、対象企業のコンサルティング案件につなげる
- b. ユーザー会を運営し、企業同士の結びつきをサポートする

#### ii. コンサルティングサービス

- a. WS参加等の大企業に対し、年単位の大型案件を獲得する
- b. WS参加等の大企業の部門導入や同中堅企業のiCD活用など、中型の案件を獲得する
- c. 大型案件実施後のフォローや、FISK関係企業へのアドバイザーなど、小型案件（含パッケージ）を獲得する

#### iii. システムサービス

- a. IPAよりiCDオフィシャルサイトを引き継ぎ、協会のホームページとして活用する
- b. IPAが公開している無料の活用システムについて、活用企業がカスタマイズしたものを協会に登録していただき、カタログ化して他の活用企業に紹介する



## 2. 事業別基本方針③

### ③新規事業の創出

・・・人財委員会における4つの研究部会の活動を活性化し、新規事業を創出する

#### i. 教育研修連携

- a. エデュケーター認証（グリーン認証）を実施し、連携団体・企業の裾野を広げ、これまで活動をより発展させる
- b. ユーザー会との連携等研修ニーズに対する紹介等を実施し、連携団体・企業とWin-Winの構築を図る

#### ii. リクルーティング

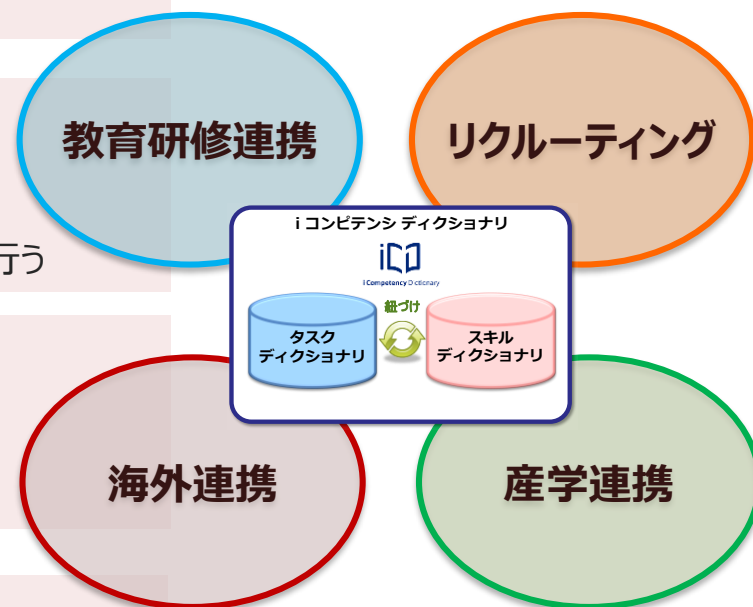
- a. iCDタスクを共通言語とした人材マッチング機能について検討する
- b. iCDタスクでのマッチングによる人材紹介について事業化の検討を行う

#### iii. 海外連携

- a. IPAにて海外を担当し、このたび退職した林口氏との連携し、海外との提携等について検討を行う
- b. IVIとの連携、SFIAとの連携によるコラボレーションを進める

#### iv. 産学連携

- a. 今後検討に着手



## 2. 事業別基本方針④

### ④企画運営と認証活動

・・・協会全体の施策立案と運営・サポートを行い、顧客基盤の拡大を図る

#### i. 各委員会、研究部会へのオブザーブ

- a. それぞれの活動における専門性を尊重しつつ、積極的に参加して活動を理解し、横展開を図る

#### ii. 政策の立案と政策決定会議への上申

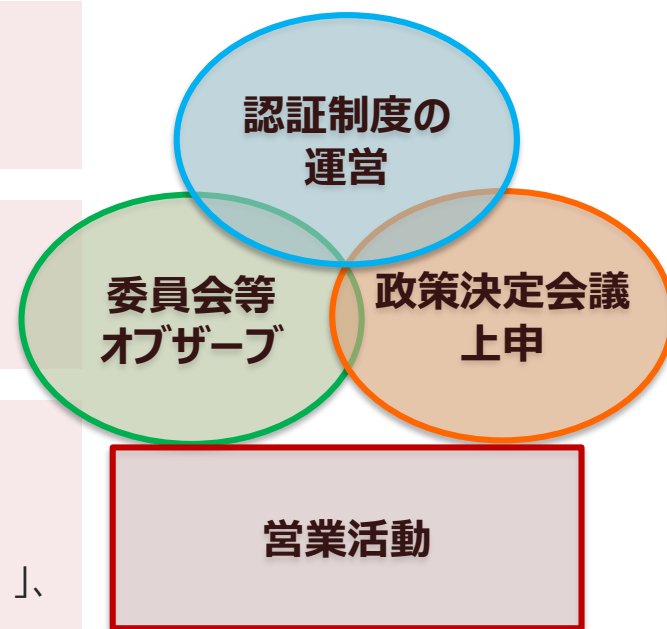
- a. 各委員会からの要望を中心に政策を立案、立案した政策を政策決定会議に上げ、最終的に理事会の承認を得る

#### iii. 認証制度の運営

- a. SSUG、CSAJ、FISAの3団体にて運営いただいた「活用企業認証」を引き継ぎ、iCDユーザーの拡大と事例収集を行う
- b. 「活用推進団体認証（パープル）」、「教育研修機関認証（グリーン）」、「コンサルタント認証（レッド）」をスタートし、運営する
- c. 活用企業認証の有料化やその他の認証の企画などを行い、協会の安定的な収益構造構築を図る

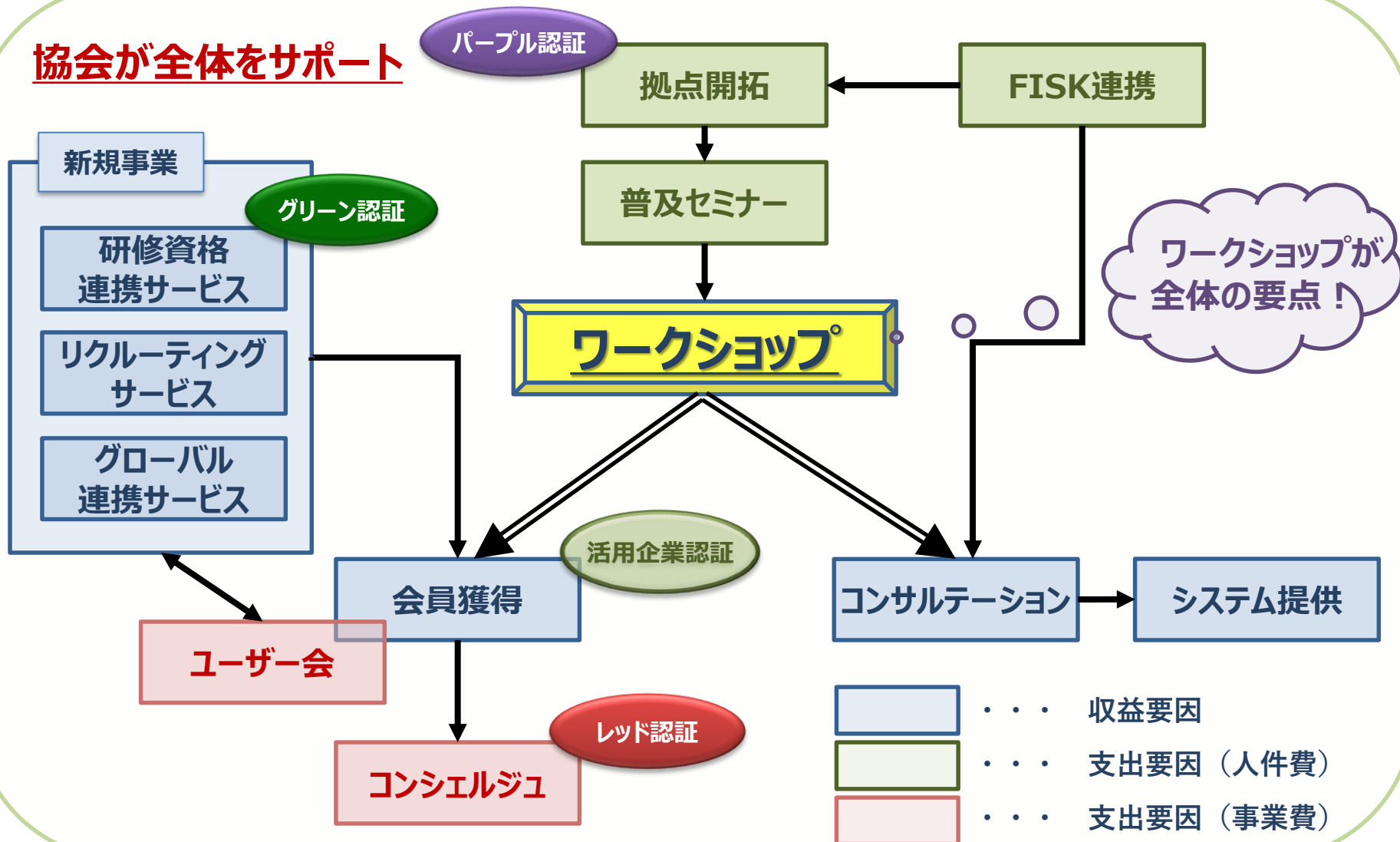
#### iv. 営業活動

- a. 各団体や地域情産協とのリレーションづくり、会員の勧誘、コンサルの提案などの収益基盤の確保と拡大を行う



### 3. iCD協会活動マップ

協会が全体をサポート



## 4. 2018年度収支予算（概算予算計画）

単位：K円

|    |           |        |
|----|-----------|--------|
| 収入 | 会費        | 21,300 |
|    | 一般事業収入 ※1 | 43,400 |
|    | その他収入     | 0      |
|    | 小計（A）     | 64,700 |

|      |             |        |
|------|-------------|--------|
| 事業支出 | 委員会等謝金      | 2,750  |
|      | 普及活動関係費用 ※2 | 3,450  |
|      | 一般事業支出 ※3   | 17,800 |
|      | 事業支出小計（B）   | 24,000 |

|      |           |        |
|------|-----------|--------|
| 一般支出 | 人件費       | 17,300 |
|      | 外部委託費 ※4  | 10,700 |
|      | 広告宣伝費     | 1,150  |
|      | 家賃        | 3,250  |
|      | その他経費     | 8,300  |
|      | 一般支出小計（C） | 40,700 |

|                     |        |
|---------------------|--------|
| 支出合計（D） = （B） + （C） | 64,700 |
|---------------------|--------|

|                      |   |
|----------------------|---|
| 当期収支差（E） = （A） - （D） | 0 |
|----------------------|---|

|      |           |       |
|------|-----------|-------|
| 特別支出 | 事前準備費用 ※5 | 5,000 |
|      | 小計（F）     | 5,000 |

|                        |        |
|------------------------|--------|
| 当期繰越収支差（G） = （E） - （F） | ▲5,000 |
|------------------------|--------|

※1：ワークショップ、構築アドバイザー等  
 ※2：ユーザー会、カンファレンス開催費用等  
 ※3：ワークショップ、コンサルティング外部委託費用等  
 ※4：税理士、事務局業務委託費（事業支出配賦前）等  
 ※5：ポータル移植などシステム構築費用等